

様式第2号

視察研修先	和歌山県橋本市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	農業振興条例について		

○概要

和歌山県の北東端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、大阪市の中心部への距離は、ともに直線で約40kmであり京阪神エリアへの交通も便利で、緑豊かな田園都市です。大阪中心部へは電車で最短40分程度の所要時間であることから、住宅都市として発展してきました。近年は人口減少に転じていることから、積極的に企業誘致に取り組んでおり、人材確保も含め、市内での就職や移住につなげるための、定住支援にも取り組んでいるまちです。

○事業内容

農業及び農村を市民とともに守っていくという意識改革を行うため、農業において、「市民」「農業者」「行政」それぞれ役割を定めたもの。また、関連するものとして補助事業についても定めている

○質疑応答

Q1：補助事業に関してどういったものに補助をしているか。

A1：

- ・農産物等のインターネット販売促進事業
オンラインショッピングモールを活用して販売する農産物や加工品に係る手数料やチラシなどの印刷費に対して補助金を交付することで、農業者の販路拡大・販売促進を推進する。
- ・橋本ふるさと便事業
橋本ふるさと便を発送する際の送料を支援することで、農業者の販路拡大・販売促進を推進する。
- ・クビアカツヤカミキリ対策事業
甚大な被害を及ぼしている、特定外来生物クビアカツヤカミキリへの防除対策に補助金を交付することで樹木の被害を未然に防止する。
- ・経営継承支援事業
親元に就農して経営を継承した農業者に補助金を交付し担い手確保を図る。
- ・認定農業者基盤強化事業
認定農業者、認定新規農業者が新たに実施する農業機械・施設の取得に対して補助金を交付する。

○感想

国の基本である農業に関して、橋本市ではきめ細やかに支援策を行っているようでした。また、クビアカツヤカミキリ対策事業に関して農作物だけでなく、民家の中にまで入り込んでいるので、国策として検討していただきたい旨の話が印象的でした。

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県紀の川市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	フルーツツーリズムについて		
○概要 紀の川市は近隣 5 町が平成 17 年に合併し紀の川市となった。合併当時は人口約 7 万人であったが、令和 6 年 3 月には 5 万 9 千人と減少傾向にある。街の中心部には川幅が広い紀の川が流れており、地形を活かした果樹栽培が盛んである。関西国際空港に約 1 時間で行くことができ、大阪府にも近く閑静で便利な土地柄。 ○事業内容 市が発起人となった、フルーツに焦点を当てた観光振興事業。新商品開発やフルーツ狩り体験など様々な事業を行う。主体となる組織も法人化し全国初となる大型のフルーツの体験型博覧会も実施している。 ○質疑応答 ふる博について伺います Q1：参加者、参加事業者数について、また、参加者の多い地域について伺います。 A1：地域全体が会場になっており、それぞれの会場が賑わっています。 Q2：ふるふるファンクラブの会員数と年齢層について伺います。 A2：会員数は全体で 2,250 名います。 Q3：多くのイベントを実施しているようですが、市民の協力体制をどのように作っていったのか伺いたい。また、多くの体験をどのように確保したのかを伺います。 A3：ほとんど法人が主体的に運営されて、行政が携わるのは初期のみです。 Q4：観光客等の受け入れ体制強化のための人材育成では、定期的なプログラム等実施されているのか伺います。 A4：人材育成ではありませんが、客を呼び込むときに注意していることがあります。1、直売所 2、トイレ 3、駐車場 この 3 点を注意してお客様の満足感を達成しています。 ○感想 和歌山県で有名といえば、みかん・梅・柿ですが果実が実る時期もほぼ一緒なので開催場所を数か所に増やしたり地域によって日にちをずらしたりして、ほぼ毎日のようにどこかで、催されているように計画されていました。また、一年中フルーツ体験が楽しめる企画もあり、通年観光も意識した取り組みであったと感じました。我が寒河江市も同じような地場産業があるので、大いに参考させていただきたいと思います。紀の川市の益々のご発展をお祈り申し上げます。お忙しいところ視察を受け入れていただき、大変ありがとうございました。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県和歌山市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	リノベーションまちづくり事業について 官民連携による稼げる空間リノベーションについて		
○概要 和歌山市は県の北部に位置し、県庁所在地でもある。人口は34万人を超え中核市に指定されている。市の歴史といえば、江戸時代には徳川御三家の一つである紀伊徳川家が治める和歌山藩の城下町として栄えた。中心市街地には城下町の名残を留めた小さな町が点在する。丁は武家町を表し、町は町人町を表しているため、歴史を伺える歴史に興味がある人はたまらなく、魅力的である。 ○事業内容 官民連携による稼げる空間リノベーション事業で遊休不動産及び公共空間の利活用を行う。また、まちづくりの担い手育成も図り、その結果、民間自立型のまちづくり会社なども設立する事業である。 ○質疑応答 Q1：市街化調整区域（立地基準）の見直しについて。 A1：①住宅の拡散を防止するため、市街化調整区域で分譲住宅等の立地を認めていた基準を廃止した。②小学校や支所等、複数の公共公益施設がある区域を、将来の生活拠点の形成をめざして、緩やかに誘導する。③駅の外縁部が虫食いの的に開発されることを防止し、駅を中心部からの開発を促すことで、連続した道路整備を可能にすることを目指した。④集落施設となる大・中規模の店舗や飲食店を許可用途から除外することで、まちなか・生活拠点への誘導を図った。 Q2：「リノベーションまちづくり」とはどういったものか。 A2：①今あるもの（遊休不動産・公共空間）を活かして、新しい使い方をしてまちを変える。②「現代版家守」と呼ばれる民間自立のまちづくり会社が、遊休不動産や公共空間のイノベーションを通じて都市型産業の集積を図り、雇用の創出やコミュニティの活性化等につなげるまちづくりである。③まちづくりとはまちのコンテンツづくりである。④できることからすぐ、する人が責任を持って事業を実施していく。 ○感想 この事業をするにあたり、どのくらい費用がかかるのか心配であったが民間活力を活かしていくようでした。中核市として近隣自治体も含め素敵な都市を築いて欲しいと思います。視察を受け入れていただき、ありがとうございました。			

様式第 2 号

視察研修先	和歌山県有田市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	有田市農業次世代人材投資事業「AGRI-LINK ARIDA」について		

○概要

霊場高野山を源として紀伊水道に注ぐ有田川を中心に、南北をみかん山に囲まれ海岸線には漁業基地や臨海工業地帯が形成されている。有田川の氾濫により大水害に襲われ、これを契機に近隣町と合併し有田町となり昭和37年隣接する初島町との合併により現在の有田市に至っている。

○事業内容

有田市がリクルートと協働して実施する、就農支援の仕組み。新規就農者、農地提供者、受け入れ農家それぞれがメリットを享受できる事業。

○質疑応答

Q1：リクルート社との共創のきっかけは。

A1：リクルート社は今後人口5万人未満の市が、増加することを想定し、まちの課題解決に繋がる取り組みを行うとのことで、有田市が選ばれた。

Q2：地域コミュニティや他の関係者からの反応や支援は

A2：地域高齢者の手伝いにも積極的に参加しており、評判も良い。

Q3：就農に関する教育支援等についての事例は。

A3：①アグリリンクは受入農家から技術習得が基本となっている。

②新規就農者に関しては、和歌山県新規就農支援センターや農林大学校などで、支援をいただくことが多い。

○農地提供者のメリット

- ・地元の信頼ある受け入れ農家に管理してもらえる。
- ・価値ある農地を次世代に引継ぐことができる。
- ・土地の賃借料がもらえる。

○実際に受入農家になった方の声

- ・ずっと悩んでいた後継者問題に、明るい兆しが見え始めた。
- ・新規就農希望者の方は熱心で仕事への姿勢も真面目である。
- ・将来、新規就農希望者が後継者になってくれることを、期待しています。

○新規就農者の声

- ・全面的にサポートしてくれたのが一番安心できたポイントです。
- ・農業を楽しんで独立してやっていけるんだという、個人的にも発信していきたい。

○感想

有田市は山あり海ありその間に平地あり、気候も温暖で産業も多角的で住むにはとても良い環境であると思います。今後ますます発展していくことを期待します。